

# 令和4年度

## 三田市 認知症地域支援推進員活動報告

### 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：4名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

認知症の人への効果的な支援を行うために、医療、介護及び生活支援を行うサービスが有機的に連携したネットワークを形成し、医療と介護の連携強化や地域における支援体制の構築を図る。

(令和4年度三田市認知症施策推進事業業務委託仕様書より抜粋)

- ①地域包括・高齢者支援センターの職員の対認知症ケアのスキル向上及び認知症ケアに携わる多職種協働のための研修事業
  - ア.認知症疾患医療センター等と連携して、認知症ケアに関する講習等の企画・実践
  - イ.認知症ケアにおける多職種協働の重要性等を習得する認知症多職種協働研修を開催

報告者氏名:寺坂梨沙 池田聡美

## ②認知症関係の事業を実施する関係機関・団体等との連携

ア.認知症疾患医療センターの機能への参加

イ.認知症疾患医療センターとの情報交換

ウ.認知症疾患医療センターが開催する医療連携協議会への参加

エ.市医師会など関係機関とのネットワークの構築

オ.かかりつけ医、サポート医、専門医療機関との連携

カ.介護保険サービス事業所等との連携

キ.関係機関への広報

## ③地域の実情に応じて認知症の人やその家族を支える事業の実施

ア.もの忘れ相談の実施

イ.認知症の人及びその介護者等を支援するための「つどいの場（認知症カフェ）」づくりや交流会開催の検討

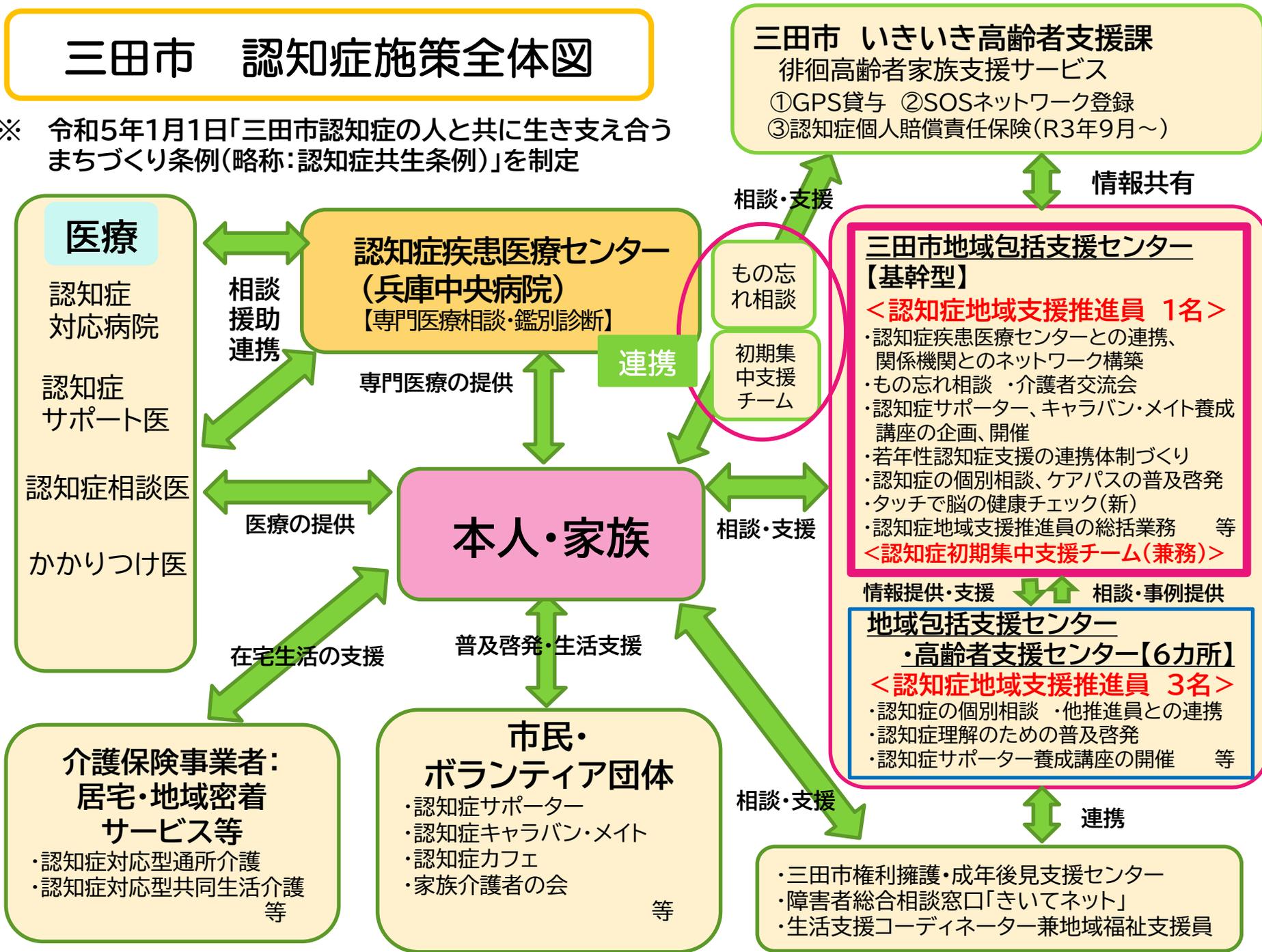
ウ.若年性認知症の人への適切な支援の検討、実施

## ④その他

- 認知症に関する正しい知識の普及啓発、地域支援体制構築等の企画調整
- 認知症ガイドブック（ケアパス）の有効活用のための普及啓発及び改訂の検討 等

# 三田市 認知症施策全体図

※ 令和5年1月1日「三田市認知症の人と共に生き支え合うまちづくり条例(略称:認知症共生条例)」を制定



# 標題 三田市における認知症の正しい理解を広めるための普及啓発

## 認知症サポーター養成講座

### 令和4年度 認知症サポーター養成状況

対象者	人数
小学校	662
中学校	0
高校	15
専門学校	19
企業・事業所	22
民生委員	44
地域住民	214
行政	29

合計1,005名

- 生活支援コーディネーターと推進員が連携して市内学校へ講座開催を提案。行政からは教育委員会を通じて養成講座を周知してもらい、新たなキッズサポーター誕生につながった。(R3年度68名 ⇒ R4年度662名)

- 認知症について家族で学びを深める機会づくりとして、「**家族向け認知症サポーター養成講座**」を夏休みに初開催。受講することで夏休みの研究作品が仕上がるようにワークショップ形式をとり小さな子も楽しく学べる工夫を行った。

- 認知症の方が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域ぐるみの見守り支援につなげることを目的に事業所向け「三田市認知症サポーター」ステッカーを作成し受講した事業所へ配布している。



# 標題 三田市における認知症の正しい理解を広めるための普及啓発

## キャラバン・メイトの育成

### キャラバン・メイトさんの声

- ・キャラバン・メイトにはなったけれど認知症のことを講座で話せるか心配…。
- ・自分で講座を展開するのはハードルが高い。何を話してよいのかわからない。
- ・他のメイトさんはどんな感じで講座をされているのかな？

➡ **メイト活動者が年々減少** ☹️



キャラバン・メイト活動者を増やして普及啓発活動を活発にしたい



### 【対策】

- ・毎年サポーター養成講座を行っている高校での講座展開を目標に、講座の組み立て方について勉強会を実施。  
⇒参加者から高校での講座実践希望あり！
- ・勉強会にあわせてメイトの交流会を行い、ともに頑張る仲間づくりにつながった。

# 認知症にやさしい図書館



MCIの早期発見・認知症予防の啓発にむけて、今年度よりタブレットを使用した脳の健康度測定を開始。

図書館でのイベントにあわせて出張版「タッチで脳の健康チェック」を2日間開催。42名もの方にご参加いただきました！



- 図書館スタッフ全員が認知症サポーター養成講座を受講していることから、推進員より「認知症にやさしい図書館」について打診。9月のアルツハイマー月間に市内2カ所の図書館にて同時開催。
- 認知症啓発ポスターの展示、タブレットを使用した脳の健康度測定「**タッチで脳の健康チェック（出張版）**」をあわせて開催。



# 認知症啓発展示

# 「安心して認知症になれるまちさんだ」

をテーマに開催



市民センター



市役所

- アルツハイマー月間である9月に市内5カ所で同時開催。
- キャラバン・メイト主体のサークル活動グループ「オレンジパンダ」のメンバーとともにポスター作成。
- ポスター展示では「オレンジパンダ」のキャラクター投票も行いました。



図書館



## 安心して認知症になれるまちさんだ

「認知症となった時に様々なことをあきらめるのではなく、胸をはって周りに伝えられる三田になってほしい」という思いがテーマにこめられています。

県庁ロビー  
三田市在住で  
「ひょうご認知症  
希望大使」である  
古屋さんのポスターを  
展示しました！



## 推進員活動を通して感じたこと

- ・「認知症を周囲に知られたくない、恥ずかしい」、「認知症になりたくない、認知症になったらおしまい」といった声がまだまだ多く聞かれる現状がある。認知症とともに歩む・認知症の方が笑顔で過ごせる三田市を目指して、今後も様々な世代に向けて認知症理解のための普及啓発を継続していきたい。
- ・キャラバン・メイトの「こんなことができたらいいな…」といった声からメイト主体のサークルグループ立ち上げに至った。認知症当事者とサポート側双方向からの「こんなことをやってみたい」を拾い上げ、マッチングしていくことが推進員の役割であり、ひいてはチームオレンジへの発展が期待できるのではないかと感じた。

## 今後について

- ・R5年度より市内地域包括支援センター全6か所に各1名の推進員が配置される。各推進員が協働して認知症共生社会のしくみづくりに臨めるよう関係性の構築を図る。
- ・三田市地域包括支援センターLINE公式アカウント「オレンジライン」始動。もの忘れ相談、タッチで脳の健康チェックの予約受付や認知症ケアパス、認知症チェックシート、脳トレ&エクササイズといった掲載メニューのほか、認知症に関する身近な情報やお役立ち情報を定期的に配信していく。